

## 普及活動情勢報告（令和4年11月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

### 生理生態情報の活用方法を探る！～品目別WG（ワーキンググループ）発足会～



意見交換する参加者

10月21日、I o P 農業研究会の下部組織となる品目別WG（ナス、ニラ、キュウリ、ピーマン）の発足会が開催されました。ニラWGは中央東農業振興センターを会場に、WEB中継も行われ、県下関係者約30名が参加しました。

農業改良普及課は、事前に生産者へ会の案内を出し、当日はWEB中継の準備や、WGで使う共通ツールの登録支援を行いました。

WGでは、産地や品目を越えた生産者や普及指導員などが、栽培における光合成速度や蒸散速度等の生理生態情報の活用方法などを検討し、生産者からの要望を形にすることを目標に掲げています。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、現場に役立つ生理生態情報の活用方法を検討します。

### 冬場の収量UPに向けて現地検討会を開催！



現地検討会の様子

11月8日、JA高知県香美地区ピーマン部会の現地検討会が開催され、生産者8名が参加しました。

農業改良普及課は、I o Pクラウドのデータ解析で得られた、晴天時と雨天時のハウス内環境の推移について説明した後、黒枯病対策のための雨天時の湿度管理について指導しました。

生産者からは「自分は雨天時はこういった管理をしている」、「ほかの人のデータが見れて勉強になった」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携してピーマンの安定生産のための支援を行います。

### 農福連携の推進 ～シシトウパック詰め体験会の開催～



関係機関も多数参加

11月10日、南国市農福連携研究会がJA高知県南国営農経済センターでシシトウのパック詰め体験会を開催し、福祉事業所等の支援員や利用者等33人が体験しました。

当日は、出荷場でのパック詰め作業を見学後、シシトウの選別、パック詰め、計量、溶着留めと一連の作業を体験してもらいました。

農業改良普及課は、事前に作成したパック詰めの作業動画を活用し、作業手順を説明しました。

参加者からは「体験できて良かった」、「事業所でもできる作業だ」などの声があり、体験会はとても好評でした。

パック詰め作業の労働力確保は、シシトウ産地の喫緊の課題であり、農業改良普及課は、研究会活動を通じて農福連携の取組を推進していきます。

## 環境制御で高品質安定生産を ～温室みかん部会現地研修会～



炭酸ガス施用も始まっています

11月8日、10日、11日、15日に、JA香美地区温室みかん部会が支部ごとに現地研修会を開催し、部会員合計27人が参加しました。

10月下旬から加温している園地、これから加温する園地計42か所を巡回しながら、前作の反省点、防除履歴、樹の状態、加温開始の時期等について検討しました。

農業改良普及課は、安定した着花量を確保できるよう慎重に加温開始すること、限られた面積で収量を高める手段として炭酸ガス施用を利用することなどを指導しました。

また、今作からはSAWACHI接続の環境測定装置を利用して園地内環境を把握し、栽培管理の向上につなげる取組も始まっており、関係機関と協力して支援していきます。

## フルーツトマトに向けての樹作りを！



意見交換の様子

11月8日、JA高知県香美地区フルーツトマト部会の現地検討会が開催され、生産者12名が参加しました。

集出荷場でJAから現在の販売単価と出荷量の推移の説明があった後、農業改良普及課からは、気象と生育調査の中間報告を情報提供するとともに、農薬安全使用について指導を行いました。

現地ほ場では、樹勢を確認しながら今後の管理の方向性や、2週間ごとの葉柄分析結果に基づいた追肥の施用量などについて、生産者同士で意見交換する姿が見られました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携し、フルーツトマトの生産安定を支援します。

## 土佐甘とう部会提案型の担い手確保に向けて2 ～提案書の内容をもっと魅力的に！～



提案書案を説明する普及指導員

11月9日、JA高知県南国営農経済センターで土長地区土佐甘とう部会が通常総会を開催し、生産者7名が参加しました。

農業改良普及課は、9月28日に開催された提案書の作成に係る会議で出た意見を基に部会提案書案を作成し、部会員に説明しました。

参加者からは「以前より良くなったが、もっと収入面での魅力を発信して欲しい」、「消費面に关わる魅力の発信もできないか」、「年内には完成させて活用しよう」など、積極的な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、土佐甘とう部会の担い手の確保・育成に向けて、引き続き関係機関と連携し支援を行います。